

看護部

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

看護師	1,270人
助産師	56人
保健師	5人
保育士	8人
クラーク	44人
看護補助員	103人

2. 看護部理念

私たちは、患者・家族の皆様が、安心と満足の得られる看護を提供します。

3. 基本方針

- 1 特定機能病院の役割として、患者さんの安全で快適な療養環境を整えるとともに、他の医療機関と連携します。
- 2 社会の変化に対応できる看護を目指し、自己研鑽に努めます。
- 3 教育機関として、医学生・看護学生等に模範を示し、後輩の育成に努めます。
- 4 自治医科大学附属病院で培われた看護を他の医療機関でも実践し、地域医療に貢献します。

4. 平成27年度看護部重点目標

平成27年度の看護部の重点目標に以下の3項目を挙げ、活動を行った。

- 1 病院の将来構想に向けて、人材確保と離職防止に努める。
- 2 病院機能評価受審にむけた取組の中で、看護部の職員としての役割を果たし、患者サービスを向上させる。
- 3 地域包括ケア体制の中で、高度急性期病院としての在宅支援体制の整備を推進する。

5. 委員会と連絡会

看護部の目標達成に向け、委員会活動を中心に行っている。委員会は次の1)～10)の委員会と、3つの連絡会で以下の活動を行った。

【委員会の活動】

1) 研修・看護職キャリア支援委員会

看護職キャリア支援センターが開発した教育プログラムに準じて14のラダー研修を担当し、ラダーの到達目標に合わせた研修の企画・運営・評価を行った。前年度からの課題を踏まえて企画・運営を行った。

教育プログラムは高い看護実践能力をもつ看護職を目指したキャリア・パスであり、ほとんどのラダー研修で

研修後に課題を提示し、その提出されたレポートで評価を行っている。今年度提出された課題レポートの総数は838であった。レポートの評価については、評価者の統一した見解が課題となっていたため、今年度は看護倫理研修【2】の評価において、1事例を評価者全員で評価し、評価の視点の統一を図ったうえで課題レポートを評価した。

定例の委員会では企画案の検討、研修の評価や今後の課題について検討した。定例の委員会を月に1度開催し、ラダー研修ごとの担当者の活動と課題レポートの評価のため、臨時の委員会を2回開催した。また、次年度から看護展開研修【2】・【3】は看護研究委員会が企画・運営を行うこととなり、定例と臨時の委員会以外に看護研究委員会との合同委員会を3回開催し、研修の企画・運営・評価を共同でおこなった。

ラダー研修を受講した受講生のアンケートでは、すべての研修において「研修内容は役立つ」との結果を得られた。今後は、看護研究委員会とも連携を図りながら高い実践能力をもつ看護職を育成していく。

2) 安全活動推進委員会

『患者と看護職員の安全を守るための行動が遵守できるよう支援する』を活動目標とし、①5S・指差し呼称活動②針刺し・手指衛生活動③災害対策活動の3つを活動項目にあげ、グループ分けをして活動を行なった。5S・指差し呼称活動は、院内巡視を実施し、各部署の5S活動（整頓）に対し周知徹底・再確認することができた。指差し呼称活動は、院内の平均実施率90%以上を目標にしたが、「指で指す」に関しては実施率88%のため目標達成に至らなかったが、「声を出す」では実施率90%と目標達成できた。針刺し事故防止活動は、インスリン注射に関する事象が多いことが明確となった。そのため、インスリン注射に関する写真つきポスターを作製、注意点を可視化した。手指衛生活動は、手指消毒薬個人使用量調査を行ない、目標最低使用量と比較し、使用量増加の啓発活動を行った。災害対策活動では「地震発生時の初動フロー」を見直し、フローを活用した初動訓練を全員が体験できるようにした。地震災害時のみでなく火災災害時の初動訓練についても検討していくことが今後の課題である。

3) 看護研究委員会

平成27年度看護研究委員会の活動方針は、「看護研究の質の向上に努める。」であり、重点目標を、①院内看護研究発表会の企画・運営の検討をする、②研修・看護職キャリア支援委員会と協力して、看護展開研修【2】・【3】の運営と評価を行う、として活動した。委

員会は10回開催した。

重点目標①については、院内看護研究発表会を滞りなく企画・運営ができた。部署持ち回り制の院内看護研究発表会としては最後となった。発表会は平成27年9月12日(土) 半日開催し、発表演題数は8題で267人が参加した。

研究発表会前に委員会で研究論文の査読を行っている。「自部署の看護研究論文がより質の高い論文になるための修正箇所が分かる」ということを目的に、発表部署の看護師長・主任看護師にも参加してもらっている。このことは、今後の外部の学会発表に向けての論文の見直しに役立ち、看護研究の質の向上に繋がったと考える。

重点目標②については、研修・看護職キャリア支援委員会の協力を受け、看護展開研修【2】・【3】に主体的に関わった。今年度の活動の評価を行い、次年度に繋げていく。

次年度の課題としては、部署持ち回り制の院内看護研究発表会が終了となるため、今後の看護研究発表会のあり方を考えていく。また、今年度から担当している自治医科大学倫理指導員としての役割を果たしていくための活動を行っていく。

4) 看護記録委員会

今年度の目標は、①自治医科大学附属病院の看護記録についての理解を深め、看護過程がわかる記録ができる②看護記録連絡員の活動計画実施率を80%とするとして活動を行った。6月に看護記録連絡員に対して「役割向上集会」を実施し、看護記録委員会の目標、看護記録連絡員の役割、看護記録連絡員の活動予定について周知をするとともに、担当委員との顔合わせを行い、年間を通してサポートしていけるようにした。

目標①に対する活動としては、7月に、連絡員を対象に勉強会を実施した。「看護方針立案時のSOAP記録ができ、適切な看護方針が立案できる」を目標に、模擬事例を用いてSOAP記録を考えた。又、看護記録の監査を、7月、12月の2回実施し、監査点数の比較により、勉強会での学びが看護記録の向上に活かしているかについて評価した。看護記録監査の評価では、「看護計画」の評価点数が、目標2.7以上に対して結果は3.0であった。「SOに対して根拠に基づいた判断が【A】に記録されている」の評価点数が、目標3以上に対して結果は3であった。

看護記録監査のスタッフ監査と中央監査の点数差が昨年より少なくなるに対して、結果は0.62小さくなった。看護計画立案率が目標85%以上に対して、結果は86.1%であり、数値目標は全て達成できた。

目標②に対する活動として、部署別に行う勉強会について、担当委員が内容確認を行った。又、7月の看護記録監査について、委員会の監査結果をもとに担当委員が部署にフィードバックを行い、年間を通して部署の質問

などに対応しフォローした。連絡員の活動目標の中間評価についても確認、アドバイスをを行い、目標達成に向けてのサポートを行った。2月末の活動評価では、目標80%に対して、結果80.57%であり、目標を達成できた。

今年度は、看護記録基準、看護記録手順、看護記録監査表についての見直しも行ったが、次年度は、電子カルテの更新に合わせて、活動計画、内容の見直しが必要となる。

5) 看護情報システム委員会

当委員会は医療情報部と連携し、病院情報システムの運用と重症度、医療・看護必要度評価が正しく行えるように支援することを目標に活動している。今年度は各部署の担当者が部署の課題を達成できるように支援した。重症度、医療・看護必要度評価の看護記録を委員会で監査し、結果を部署毎にフィードバックした。監査結果を比較し、委員会や部署の取り組みも評価した。今後は重症度、医療・看護必要度の監査方法の基準作成に取り組んでいきたい。

重症度、医療・看護必要度の評価方法を理解し、自部署の患者を正確に評価できることを目標に、看護師全員を対象とした勉強会を部署毎に行った。勉強会を実施したことで評価の精度は上がっている。また正規職員短時間制度の勤務者、中途採用者への重症度、医療・看護必要度の勉強会も3回実施した。

当委員会では医療情報部と連携し、病院情報システムの運用とデータの二次利用の推進のためのデータを毎月提示している。データは、部署の看護実践、年度目標の評価に活用している。

6) 看護基準委員会

看護基準委員会では、自治医科大学附属病院の看護部としての看護基準のあり方を考え、「看護実践のための行動指針及び実践評価のための枠組みを構築する」ことを目標に、まずは今年度受審予定の病院機能評価に向けて看護基準関連の整備を行った。明文化されていなかった「インフォームド・コンセント(IC)同席」の看護業務基準・手順の作成を行い、看護業務基準の分類項目に新たに「意思決定支援」の項目を設定した。

また、院内向けポータルサイトの稼働に伴い、院内マニュアル内の看護マニュアルに、どのような章立てをすかの検討を行った。看護マニュアル内には、1. 看護部運営、2. 看護部倫理、3. 教育体制、4. 業務、5. 部署別基準として5つの章立てを行い、共通ファイルとして紙面で周知されていた「看護部取り決め事項」の内容も、これらの中に掲載されるよう整理するとともに、マニュアル等の修正や新規作成を行った。

看護基準委員会として、看護部関連の基準やマニュアル類がどのように管理されるべきか引き続き考えていく必要がある。現状としてポータルサイトに掲載を希望する看護関連文書の依頼があった場合の取扱いの流れを作成中である。看護業務基準・手順や部署業務に関するものは看護基

準委員会が内容の確認を行うなど関わっていくことを、今後の活動内容のひとつとしていく予定である。

7) 看護業務委員会

看護業務委員会では、看護職員が患者へ適切な医療や看護を提供することができるよう、人材を有効活用することや他部門と協力・連携し、業務の効率化を図ることを目標に活動している。

今年度の活動内容は、抗がん薬曝露防止対策フローチャートの作成、薬剤師と連携し、曝露防止として機能性に優れている抗がん薬ルートの選定、策定した曝露防止対策を周知するために看護師へ勉強会を行った。

適切な看護の提供のための人材活用や業務の効率化の一端として、部署間応援（リリーフ）体制の構築に着手した。日勤勤務における部署間応援体制は、確立しつつある。応援協力することの意識が院内全体で高まった。

他に、看護師の業務負担軽減として薬剤師による持参薬の確認業務を全病棟実施、ベッド保守点検の業務委託、看護師ユニフォームの更新、看護師就業前調査実施のためにプレテストを行った。

8) 固定チームナーシング委員会

活動目標

- (1) 固定チームナーシングの充実を目指し計画した委員会活動を実践する
- (2) 部署のチーム目標が達成できるように支援する

活動内容

- (1) 年間計画に基づいて、全部署が固定チームナーシングを導入し、中間・成果発表会を開催した。固定チームナーシング導入開始から4年間の委員会としての活動の評価を行うため、①チェックリスト評価、②部署目標・チーム目標の達成率、③チームリーダー・サブリーダーの課題達成率、④中間・成果発表会、の4つのグループで現在分析を行っている。
- (2) 部署のチーム目標が達成できるための支援として、リーダー・サブリーダー研修の中で、委員会メンバーがファシリテーターとして助言を行い、部署訪問では、看護師長を通して固定チームナーシングの運営に関わる問題や困難と感じている事柄等を解決できるように関わった。リーダー・サブリーダー研修のアンケートから、受講生の学びが多いことや、リーダー・サブリーダーとしての役割の意識づけにつながっていることが分かったため、次年度も継続してそれぞれの役割が発揮でき、小集団活動の成果がでるように導いていくことが必要である。

次年度の課題

- ・全部署が導入できたが、今後も固定チームナーシングが基準通り運営でき、看護の質の向上とやりがいにつながるように委員会として支えていく。

9) 在宅支援委員会

今年度の看護部重点目標に「地域包括ケア体制の中で、高度急性期病院としての在宅支援体制の整備を推進する」ということが挙げられ、在宅支援委員会が新たに設置された。

今年度の活動目標を、「各部署の退院支援に関する認識の統一を図る」「適正な在宅支援の判断ができる」とし活動してきた。

退院支援に関する認識を統一するため、退院支援担当者を中央手術部・中央放射線部を除く全部署に配置し、研修会を5回実施した。第1回目は役割説明会で担当者に動機づけを行った。第2回目は介護制度とサービスについて、第3回目は院内連携について、第4回目は院外連携について、第5回目は活動報告を開催した。研修参加者の満足度は高く、「今後活かせる内容であったか」の問いにはほぼ全員が、すべての研修会において「活かせる」と回答していた。また、適正な在宅支援の判断ができているかを支援するために、委員が部署担当を決め、部署訪問を実施した。退院支援担当者と直接面談し、各部署で工夫し退院支援強化に取り組んでいる状況を把握し、不足な点はアドバイスを行った。部署ごとの考え方や事情を知ることができ、個別指導ができた。

今後の課題として、診療報酬改定に伴い、退院調整加算が退院支援加算となり、算定が難しくなるので、委員会としてどのように貢献していくかが課題である。

10) 病院・看護情報システム開発プロジェクトチーム

病院・看護情報システム開発PTは、次期病院情報システム更新に向けて看護師の業務に関わるシステムの仕様・運用に関する検討を行うために結成されたプロジェクトチームである。病院情報システム更新の目的を①患者の視点、②職員の視点、③経営の視点から検討し、看護師が業務を安全に、効率的に実施できること、病院情報システムデータの利活用を行うシステム開発を行っている。

今年度は仕様書の確認、開発ベンダーの選定、開発設計に向けた検討、バイタルサイン入力支援システムの業者選定などを行った。

看護支援システムでは看護データベースの分類方法を見直し「患者基本情報」「治療情報」「入院生活のために必要な情報」「退院後の生活のために必要な情報」という分類方法の検討を行った。また、「指示の確認」「指示受け」「照合」「写真取り込み」「バイタルサイン入力」等へi-Podタッチやバイタルサイン入力支援システムの導入を決定した。

標準看護計画は現在3,300件以上登録されているが、実際運用されているものはその中の30%ほどであり、システム更新に伴い計画内容を見直し、看護計画の標準化、共通化を図り使える標準看護計画の登録を行いたいと考えている。

来年度は仕様の設計段階に入る。想定どおりの運用ができるかどうかの確認を行っていく。システムリハーサ

ル、システムの研修会の開催など、病院情報システム更新がスムーズに行え、看護実践の効率化や標準化、看護の質の向上に貢献できるシステムにしていきたいと考えている。

【連絡会の活動】

1) 専門・認定看護師連絡会

この連絡会は、看護副部長1名と専門看護師3分野7名、認定看護師16分野23名（1人育児休暇中）の総勢27名（3名は専門看護師・認定看護師の資格を有する）で構成している。

個々の活動での悩みや疑問の解決の場とし、また他分野のスキルを共有できるように情報交換を通して活動に生かすことで、連絡会の目的である専門性を高め相互研鑽することにより、質の高い看護を提言する実践を行った。

今年度の新たな活動として、看護職員対象に3分野の認定看護師の活動報告会を行った。また、報告会后に後輩の育成や各分野の役割を知ってもらうことを目的に相談会を実施し、関心のある分野の認定看護師に直接話しを聞く機会を設けた。活動報告会は今後も継続する予定である。

2) 地域実践研修支援連絡会

平成27年度の地域実践研修では、日光市民病院へ看護師7名、那須南病院に看護師6名、西吾妻福祉病院に助産師2名、看護師12名の合計27名が実施した。2年間を研修期間としているため、その前、中、後のサポート体制を示した「地域実践研修サポート体制」のフローシートを作成した。地域の医療機関での看護実践が、その後のキャリア開発に繋がるように、支援の1つとして連絡員が研修施設に赴き現地で指導者会議を実施した。このことは研修先の看護管理者との情報交換が密になり連携を深めることができた。研修2年目の研修者との面接は、指導者会議の実施に併せて行った。研修1年目の看護師には帰院してもらい個別に実施した。

地域医療の現場の看護を体験してもらうために実施している「地域体験研修」には日光市民病院3名、那須南病院1名、西吾妻福祉病院に2名参加した。

3) 臨床実習指導検討連絡会

臨床実習指導検討連絡会は、「臨床実習が効果的に行われるよう実習環境を整えること」を目的に活動を行った。9月に「臨床実習指導者としての看護過程の展開への支援」をテーマとして、臨床実習指導ワークショップを開催し、参加者は47名だった。95%の臨床実習指導者が内容を「良かった」とした。また、臨床実習指導者から自治医科大学看護学部の教員との協働のワークショップ開催の要望があったため、今後検討していく。今年度は臨床実習指導者としての要件や役割、臨床実習の具体的な進め方を明記している「臨床実習指導者の手引き」の一部見直しと修正を行った。

「臨床実習指導自己評価票」の結果では、2012年導入

時と比較し、年々自己評価は高くなっている。特に、臨床実習前後の自己評価が上昇している。それぞれの臨床実習指導者が役割を意識し、実習目的や目標にあった物的環境を整える、また担当教員との連絡や調整を実施できていると自己評価している。臨床実習中だけでなく、臨床実習前後でも臨床実習指導者としての役割が果たせ、質の向上に繋がっていると考える。次年度は、臨床実習指導に対する学生の満足度を調査し、臨床実習指導者と学生の双方の評価を知り、更に臨床実習指導の充実をはかることを課題としている。

6. 専門看護師の活動

平成27年度の専門看護師の各領域と人数は、小児専門看護師を1名育成し、表1に示す通りである。専門看護師の役割は「実践」、「相談」、「調整」、「教育」、「研究」、「倫理調整」の6つであり、今年度の専門看護師の活動は以下の通りである。

表1. 専門看護師の領域と数

専門看護師 領域	人 数
急性・重症患者看護	2名
小児看護	3名
がん看護	2名
合 計	7名

1) 急性・重症患者看護

(1) 院内活動

- ・研修医向けBLSプロバイダーコース開催（2日間）
- ・新入職者対象（127名）とした救急蘇生法教育の実施（3日間）
- ・心肺蘇生法や口腔ケア等に関する勉強会依頼6件
- ・特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会での、循環動態に係る薬剤投与関連作業チームとして試験問題や資料等の作成
- ・院内急変対応ワーキンググループの一員として、急変事例48件の検証を実施
- ・特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会「人工呼吸管理中のフィジカルアセスメント」、「人工呼吸管理の目的・適応・有害事象」試験問題作成
- ・新人研修：「環境調整」企画・講義
- ・ラダー研修：スキルアップ1「家族ケア」企画・講義
- ・ラダー研修：看護展開Ⅱ研修「フィジカルアセスメント2」企画・講義
- ・看護職キャリア支援センター形成部門メンバー：J-ARISE ナースキャリアパス作成に参画

(2) 院外活動

- ・AHA BLS プラバイダーコース インストラク

- ター5回
- ・集中治療学会主催 こころのケア講座講師
 - ・自治医科大学大学院看護学研究科非常勤講師
 - ・白鷗大学にて「救急法」講義
 - ・院内急変対応に関するセミナー講師4回
 - ・獨協医科大学大学院看護学研究科非常勤講師
 - ・日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程集中ケア学科非常勤講師
 - ・日本集中治療医学会評議委員
 - ・日本集中治療医学会関東甲信越地方会看護部会委員
 - ・日本集中治療医学会看護部会将来計画委員会委員
 - ・日本集中治療医学会看護部会副部長
 - ・日本集中治療医学会J-PADガイドライン作成委員会委員
 - ・日本集中治療医学会学術集会あり方検討委員会委員
 - ・日本クリティカルケア看護学会評議員
 - ・日本クリティカルケア看護学会せん妄ケア委員会委員長
 - ・日本看護協会看護研修学校教員会委員
 - ・杏林大学附属病院認定看護師研修学校入試委員
 - ・急性重症患者看護専門看護師協議会せん妄ワーキンググループ
 - ・日本専門看護師協議会成果研究委員会委員
 - ・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業メンバー
 - ・栃木県理学療法士会主催；気管吸引研修：年2回講義・演習
 - ・地域社会振興財団研修講師
 - ・第3回日本クリティカルケア看護学会教育セミナー講師
 - ・第8回群馬クリティカルケア研究会講師
 - ・第18回呼吸ケアセミナー講師
- (3) 実習受け入れ
- 福島県立医科大学大学院生実習1名対応
 - 自治医科大学大学院看護学研究科1名
 - 慈恵医科大学大学院看護学研究科2名
 - 日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程集中ケア学科3名
 - 杏林大学附属病院認定看護師教育研修センター集中ケア学科2名
- (4) 学会参加
- 日本臨床救急医学会
 - 日本クリティカルケア看護学会
 - 日本救急看護学会（共同演者として発表）
 - 日本救急医学会地方会（座長）
 - 第43回日本集中治療医学会学術集会（座長）
 - 第25回呼吸ケアリハビリテーション学会
 - シンポジウム登壇
 - 第3回北関東心不全研究会（座長）

- 第37回日本呼吸療法医学会（座長）
 - 第24回日本集中治療医学会関東甲信越地方会シンポジウムII登壇
 - 世界集中治療医学会2015（韓国）ポスター発表
- (5) 研究 研究サポート7件
- (6) 雑誌等の執筆 5本
- 2) 小児看護
- (1) 院内活動
- ・専門看護師の役割機能（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）を活用し、所属部署内および小児に関連する部署で活動した
 - ・子ども医療センター教育グループの活動：院内の看護師と小児に携わる専門職を対象とした勉強会の企画・運営を行った
 - ・子ども医療センター在宅グループの活動：在宅療養に関する問題への対応、指導パンフレットの見直し、在宅療養指導管理料に伴う医療材料の整備等を行った
 - ・平成27年度新入職者研修の集合研修の講師
 - ・小児緩和ケアチームの活動：コアメンバーとしてカンファレンスの運営、倫理的調整、患者・家族に直接介入して意思決定支援や終末期の在宅移行支援を行った
 - ・小児虐待対策委員会の委員として活動した
- (2) 院外活動
- ・県内小中学校での児童・生徒・保護者を対象とした健康教育の講師（自治医科大学看護学部共同研究「へき地における子どもの健康の維持・増進に関するへき地診療所と学校との連携」の活動）
 - ・平成27年度関東甲信越地区母子保健事業研究会の講師：テーマ「医療機関による要支援妊婦の把握と自治体との連携」
 - ・船生小学校PTA講演会の講師：テーマ「子どもの発達に応じた親としての関わりについてーもうすぐ思春期 今、親としてできることー」
 - ・第2回日本CNS看護学会パネルディスカッション「在宅・外来でのCNSの活動の実際とそれを促進する看護管理者の役割」の講師：テーマ「教育・福祉（行政）・医療の連携におけるCNSの活動と課題」
 - ・平成27年度とちぎ小児看護研究会特別講演の講師：テーマ「小児の在宅看護ー入院したときから退院支援を考えようー」
 - ・第3回日本CNS看護学会企画委員
 - ・とちぎ小児看護研究会事務局
- (3) 実習受け入れ
- ・自治医科大学看護学部臨床講師（小児看護学講義、看護トピックス）
 - ・自治医科大学大学院看護学研究科非常勤講師（小児看護学講義と演習、母性看護学演習）

(4) 学会参加

- ・第2回日本 CNS 看護学会
- ・第51回日本小児循環器学会学術集会
- ・日本小児看護学会第25回学術集会
- ・第25回日本外来小児科学会年次集会
- ・日本ルーラルナース学会第10回学術集会
- ・第13回日本小児がん看護学会学術集会
- ・第43回日本集中治療医学会学術集会
- ・第22回日本胎児心臓病学会

(5) 研究

- ・修士課題研究：テーマ「苦痛を伴うために鎮痛・鎮静下で検査・処置を受ける子どもの体験」、日本小児看護学会第25回学術集会にて発表
- ・自治医科大学看護学部共同研究：テーマ「へき地における子どもの健康の維持・増進に関するへき地診療所と学校との連携」、共同研究者
- ・小児重症集中治療看護ネットワーク共同研究：「小児集中治療室における身体抑制の実態調査」、共同研究者
- ・研究課題名「小児の心臓カテーテル検査・治療における看護の問題」、共同研究者
- ・厚生労働科学研究補助金（育成疾患克服等次世代育成基盤研究事業）慢性疾患に罹患している児の社会生活支援ならびに療育生活支援に関する実態調査およびそれらの施策の充実に関する研究、分担研究「患者・家族に対する支援体制の構築に関する研究」、研究協力者
- ・研究課題名「女性小児がん経験者の情報及び支援ニーズと自己効力感」、共同研究者
- ・木村看護教育振興財団看護研究助成「小児循環器看護の専門性と教育ニーズ」、共同研究者
- ・厚生労働科学研究補助金「PICUの環境と医療者の関わりが両親に及ぼす影響に関する研究－日米比較とMixed method法による検討－」研究協力者

(6) 雑誌等の執筆

- ・小児がん看護 (Vol.10, No.1 2015.14-22)：研究報告「終末期にある小児がん病児の同胞への支援の検討」、共同執筆

3) がん看護

がん看護専門看護師は、看護部本部に所属し緩和ケアチーム専従看護師である1名と外来診療部・第一外来に所属する1名の2名である。

(1) 院内活動

- ①緩和ケアリンクナース勉強会の企画と運営
- ②看護職キャリア支援センターを兼務し、「心理ケア」のラダー研修を企画と講義
- ③多職種と協働し、毎月1回「がん患者と家族のためのサロン虹」の企画と運営
- ④がん相談支援室相談員

⑤臨床心理士とともに、がんを持つ親の子どもへのサポートグループ (CLIMB® プログラム) の企画・運営

⑥がん化学療法を受ける患者・家族の意思決定支援やセルフケア支援、多職種と協働し在宅療養支援などを実践

⑦化学療法センターの他職種カンファレンス参加

⑧新人看護職集合研修講師

⑨化学療法部会構成員

(2) 院外活動

①自治医科大学看護学部と自治医科大学大学院看護学研究科の非常勤講師

②栃木県看護協会在宅ターミナル研修講師

③栃木県立衛生福祉大学校非常勤講師

④看護師特定行為研修センター研修指導補助者

⑤地域社会振興財団中央研修会のがん化学療法看護研修会講師

(3) 実習受け入れ

自治医科大学大学院看護学研究科がん看護専門看護実習Ⅱ

(4) 学会参加 6件

7. 認定看護師の活動

平成26年度に就学した「集中ケア」1名「緩和ケア」1名が合格し、今年度から活動を開始した。

各分野と人数は表2に示すとおりである。

認定看護師の役割は、「実践」、「指導」、「相談」の3つであり、今年度の認定看護師の活動は以下のとおりである。

表2. 認定看護師の分野と人数

認定看護師 分野	人数
集中ケア	3名
皮膚・排泄ケア	3名
糖尿病看護	1名
救急看護	1名
手術看護	1名
新生児集中ケア	2名
感染管理	1名
乳がん看護	1名
がん化学療法看護	1名
摂食・嚥下障害看護	1名
がん放射線療法看護	1名
透析看護	1名
がん性疼痛看護	2名
小児救急看護	1名
認知症看護	1名
緩和ケア	2名
合計	23名

1) 集中ケア

(1) 院内活動

- ・RST 巡視活動（1回/週、ICU 看護師と交代で実施）
- ・人工呼吸管理勉強会（一般病棟看護師対象）
- ・特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会「人工呼吸管理の目的・適応・有害事象」資料作成

(2) 院外活動

- ・集中ケア認定看護師会 監査
- ・第75回臨床セミナー講師 チーム医療 CE 研究会主催
- ・第27回沖縄呼吸ケアセミナー講師 沖縄呼吸ケア研究会主催
- ・日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程集中ケア学科臨床指導者
- ・杏林大学附属病院認定看護師教育研修センター集中ケア学科臨床指導者

(3) 実習受け入れ

日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程集中ケア学科3名
 杏林大学附属病院認定看護師教育研修センター集中ケア学科2名

(4) 学会参加

- ・第37回日本呼吸療法医学会

(5) 雑誌等の執筆 3本

2) 皮膚・排泄ケア

(1) 院内活動

- ・院内勉強会 10回
- ・褥瘡管理

リスクアセスメント票確認	2,662件
褥瘡ハイリスクケア加算算定	2,274件
- ・褥瘡処置 529件
- ・創傷処置 175件
- ・ストーマケア 803件
- ・失禁ケア 36件
- ・その他 307件
- ・コンサルテーション 374件
- ・褥瘡対策委員会
- ・二分脊椎カンファレンス
- ・ストーマ連絡会
- ・重症心不全チームカンファレンス
- ・特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会での、循環動態に係る薬剤投与関連作業チームとして試験問題や資料等の作成

(2) 院外活動

栃木ストーマ研究会 幹事
 栃木ストーマ研究会 編集委員
 栃木ストーマ講習会 実行委員
 日本小児ストーマ排泄管理学会 世話人
 小児皮膚・排泄ケアネットワーク

日本褥瘡学会関東甲信越地方会栃木県支部 世話人

県東・県南地区スキンケア勉強会講師

- (3) 学会参加 14回
- (4) 研究 2回
- (5) 雑誌等の執筆 1回

3) 糖尿病看護

(1) 院内活動

①糖尿病看護外来（療養支援外来）

在宅療養支援 （注射・血糖自己測定指導含む）	970件
フットケア実践	107件
家族支援	13件
外来 SAP 導入指導	11件
外来 CGM 実施	25件
②コンサルテーション	81件

③講義・勉強会

新入職看護師集合研修会「血糖測定・インスリン」

新入職レジデント集合研修「インスリン」

外来・病棟看護師勉強会 6回

④他科看護師とのケースカンファレンス 7症例

⑤特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会での、循環動態に係る薬剤投与関連作業チームとして試験問題や資料等の作成

(2) 院外活動

- ①研修会講義 5件
- ②研修学校・看護学校講義 5回
- ③研修会等企画運営 4件
- ④社会保健活動 3件

(3) 実習受け入れ

日本看護協会看護研修学校糖尿病看護認定看護師教育課程3名

(4) 学会参加 3件

(5) 研究 共同研究2件

4) 救急看護

(1) 院内活動

- ・研修医向け BLS プロバイダーコース開催（2日間）
- ・新入職者対象（127名）とした救急蘇生法教育の実施（3日間）
- ・コメディカルに対する AED 研修に講師として参加
- ・全部署対象に救急蘇生法に関する勉強会の実施（3回/年）
- ・特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会での、循環動態に係る薬剤投与関連作業チームとして試験問題や資料等の作成
- ・院内急変事例48件の検証を実施
- ・救急外来トリアージナース配置に伴う、教育とマニュアルの整備および環境の調整を実施

(2) 院外活動

AHA BLS プロバイダーコースインストラクター
5回実施

JPTEC プロバイダーコースインストラクター2
回実施

自治医科大学大学院看護学研究科非常勤講師

白鷗大学にて「救急法」講義

院内急変対応に関するセミナー講師4回

DMAT 訓練参加

常総市災害支援活動

日本循環器学会主催 市民公開講座 心肺蘇生法
講師

芳賀医師会主催 心肺蘇生法講習会講師

(3) 学会参加

第18回日本臨床救急医学会

第11回日本クリティカルケア看護学会

第17回日本救急看護学会（共同演者で発表）

第66回日本救急医学会地方会（座長）

(4) 研究 研究サポート1件

(5) 雑誌等の執筆 3本

5) 手術看護

(1) 院内活動

①術中待機している患者家族への術中訪問実施の検討

②他部署との連携

・循環器センター

心臓手術を受ける術前患者へのパンフレットの作
成、術前患者が術後の回復過程をイメージできる
ようなガイダンスの検討

③コンサルテーション

部署内：20件、院内：2件、院外：2件

(2) 院外活動

①日本手術看護学会関東甲信越認定看護師代表

②日本手術医学会教育委員/日本手術医学会評議委員

③日本小児麻酔学会/評議委員

④とちぎ手術看護情報交換会/世話人会

⑤北関東手術看護研究会代表

(3) 実習受け入れ

自治医科大学看護学部、国際福祉大学看護学部、
結城看護専門学校

(4) 学会参加

①日本手術看護学会 関東甲信越地区：シンポジスト

②日本クリティカルケア看護学会

③日本ルーラルナーシング学会：演題発表

④日本小児麻酔学会：演題発表

⑤日本手術医学会総会

⑥日本手術看護学会年次大会：演題発表

⑦日本看護科学学会：演題発表

⑧日本手術看護学会（10/9～10札幌）

示説で4演題発表 関東甲信越地区 看護研究班

(5) 研究活動

①日本小児麻酔学会

示説 発表「周術期における小児の静脈血栓塞栓
症の予防の検討」

②日本ルーラルナーシング学会

示説 発表「へき地における急性・重症患者看護
専門看護師の活動の可能性と今後の課題」

③日本看護科学学会

口演 発表「術後疼痛を緩和するための手術室看
護師による術前ガイダンスのあり方の検討」

(6) 雑誌等の執筆

外回り看護エキスパートの知識・技術皆伝講座－
外回り看護師の役割－. 手術看護エキスパート.
7 (5). 2014.28-33

6) 新生児集中ケア

(1) 院内活動

勉強会11件

(2) 院外活動

新生児蘇生法インストラクター2件

看護学部講義1件

(3) 学会参加 1回

7) 感染管理

(1) 院内活動

・研修協力（研修医リスクマネジメント研修、新
入職看護職員集合研修、救急部研修医対象個人防
護具着脱訓練1回/3か月）

・委員会活動（院内感染対策委員会、ICT、看護部
安全活動推進委員会）

・リンクスタッフスタディ開催と教育

（1回/月）

・サーベイランス（針刺し・切傷、手指消毒薬
使用量、下部消化管SSIの実施、ICU部門：
VAP,CLBSI 協力）

・感染対策へのコンサルテーション

・感染防止対策加算算定のための部署巡視

（1回/週）

(2) 院外活動

・TRICK 活動（会議・合同カンファレンスへの参
加6回/年、研修会のファシリテーターとしての
協力）

・日本感染管理ネットワーク関東支部役員活動

・感染防止対策加算算定のための加算1の3施設の
相互の施設ラウンド、加算2の2施設との年4回
のカンファレンスの実施

・第1種感染症医療機関として、栃木県患者受け入
れ合同シミュレーションの実施

・一般社団法人日本私立医科大学協会 医療安全・
感染対策部門相互ラウンド実施（愛知医科大学病
院）

・私立医科大学感染対策協議会活動

・国公立大学病院感染対策協議会総会参加

(3) 学会参加

- ・日本環境感染学会総会参加
- ・日本感染管理ネットワーク学会学術集会参加

(4) 雑誌等の執筆 2件

8) 乳がん看護

(1) 院内活動

- ・リンパ浮腫ケア勉強会「基礎編 5回・実践編 3回」講師
- ・乳がん看護勉強会 3回 講師
- ・患者会「ピンクリボン桜の会」4回開催 世話人
- ・看護学部講義（がん看護学）講師
- ・患者支援

告知時支援	88件
意思決定支援	79件
治療継続支援	222件
ボディ変容の支援	24件
リンパ浮腫支援	126件
リハビリ支援	1件
家族支援	14件
在宅療養支援	299件
電話相談	371件
- ・他職種からの相談・指導
院内27件・院外2件

(2) 院外活動

- ・乳癌学会学術総会会場での患者相談室
- ・TOCHIGI BREAST CANCER ACADEMIA
パネリスト
- ・日本乳がん看護研究会 相談員
- ・栃木県心身医学研究会 発表
- ・栃木 BCN 研究会 世話人
- ・リレーフォーライフ栃木 啓発活動

(3) 実習受け入れ

- ・自治医科大学看護学部 看護総合セミナーの研究協力

(4) 学会参加

- ・乳癌学会学術総会
- ・日本がん看護学会

(5) 研究

- ・リンパ浮腫勉強会参加後の変化

9) がん化学療法看護

育児休暇のため活動はなかった

10) 摂食・嚥下障害看護

(1) 院内活動

- ・実践件数：34件
- ・相談件数：11件
- ・指導件数：27件
- ・嚥下・口腔ケアチームによる口腔ケア回診回数：37回
- ・嚥下・口腔ケアチームによる口腔ケア回診件数：113件

- ・嚥下・口腔ケアチームによる病棟看護師への指導件数：76件

(2) 院外活動

- ・北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人
- ・講師
栄養管理研究会
栃木県看護協会 介護・福祉・在宅等に関する看護職の研修会
地域社会振興財団 第43回 看護師研修会
栃木県看護協会 宇都宮地区支部研修会

(3) 学会参加

- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (H27.9)
- ・日本がん看護学会 (H28.2)
- ・その他：関連研究会・研修会：6件

(4) 研究

- ・日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 (H27.9)
テーマ：摂食嚥下障害患者における経口摂取訓練のためのスプーンの開発～第2報 食餌スライド機能を追加して～

11) がん放射線療法看護

(1) 院内活動

- ①放射線治療部での看護実践
- ②有害事象ケア、リンパ浮腫ケアについての相談対応と指導
- ③カンファレンス参加
 1. 放射線治療計画カンファレンス（1回/週）
 2. 放射線科・耳鼻科カンファレンス（1回/週）
 3. 放射線科・口腔外科カンファレンス参加（1回/2週）
 4. 摂食嚥下カンファレンス参加（1回/週）
- ④院内教育活動
 1. リンパ浮腫ケア勉強会講師・インストラクター 基礎編5回 実践編2回
（がん看護専門看護師、乳がん看護認定看護師と協同開催）
 2. がん放射線療法看護 勉強会講師 1回
 3. 放射線治療見学会 4回

(2) 院外活動

- ①第17回日本放射線腫瘍学会小線源治療部会シンポジスト
- ②第21回がん放射線治療看護セミナー講師

(3) 学会参加

- ①第28回日本放射線腫瘍学会学術大会参加
- ②第30回日本がん看護学会学術集会参加
- ③第74回日本医学放射線学会総会参加

(4) 研究

- 日本放射線腫瘍学会第28回学術大会示説発表
Patient Transportation System Zephyr™ for CT evaluation: experience of intracavitary

brachytherapy for uterine cancer

(5) 雑誌等の執筆

- ①「がん患者の皮膚障害」執筆
- ② JASTRO NEWS LETTER 記事執筆
- ③「がん看護」高齢がん患者のトータルケア執筆

12) 透析看護

(1) 院内活動

腎臓病教室 とちまめ会運営
他病棟看護師対象勉強会開催
透析部看護師対象勉強会開催
腹膜透析関連感染発症率モニター

(2) 院外活動

第17回腎不全看護学会 シェントミルキング・
マッサージに関するワークショップ開催
腹膜透析地域連携勉強会 当院の出口部ケアの紹介
関東甲信越地区透析看護認定看護師会参加
透析看護認定看護師フォローアップセミナー参加

(3) 学会参加

第60回日本透析医学会学術集会
第21回腹膜透析学会
第17回腎不全看護学会
栃木県透析医学会

(4) 研究

透析室に勤務する看護師が透析特有の技術習得を
経験しておこる気持ちの変化
第60回日本透析医学会学術集会にて発表

13) がん性疼痛看護

(1) 院内活動

- ①緩和ケアチームの一員として、オピオイド回診を
実施（1回/月で実施）
- ②2部署の病棟の回診（1回/週）
- ③がん性疼痛勉強会（6部署に8回実施「がん患者
の看護 疼痛コントロールについて」
「オピオイドスイッチについて」「非薬物疼痛ケ
ア」）
- ④ ELNEC - J 講師 1 回
- ⑤コンサルテーション 1 件

(2) 院外活動

ELNEC - J 講師 2 回

(3) 学会参加 1.2回（日本緩和医療学会、日本がん
看護学会）

14) 小児救急看護

(1) 院内活動

- ①救急外来における小児救急看護実践：院内トリ
アージの開始に伴うトリアージ環境の整備（マ
ニュアル整備やスタッフ教育など）、未就学児を
中心とした侵襲的処置におけるプレパレーション
やディストラクションの実施、帰宅時のホームケ
ア指導と家族支援、家庭内事故における家族支援

と帰宅後の事故予防指導、重症小児患者のケアと
家族への援助、小児虐待対応をしたスタッフへの
支援

- ②指導：部署内においてトリアージや小児救急看護
に関する勉強会 2 回

看護職員対象の急変時対応の勉強会（救急看護認
定看護師と共同） 3 回

- ③その他：新人看護師対象の一次救命処置指導のイ
ンストラクター、小児虐待委員会にオブザーバー
として参加

(2) 院外活動

保育施設において、小児一次救命処置方法と急病
時の対応について指導

(3) 学会参加 6 回

(4) 研究 共同演者として学会発表 1 回

15) 認知症看護

(1) 院内活動

- ①腎臓センター内での看護実践：

- ・安心できる環境作り、見当識障害への支援：24
時間リアリティーオリエンテーションの実践、全
身状態の観察、苦痛の緩和、周術期看護、せん妄
ケア、BPSD の予防と症状緩和。（フィジカルア
セスメント、もてる力を生かした日常生活活動支
援、点滴ルートの固定の工夫、転倒予防など）本
人、家族への情報提供、話し合い、多職種カン
ファレンス

- ②勉強会の開催

- ・当センターにて 4 回
- ・循環器センターにて 1 回
- ・クラーク、看護補助員 研修会 4 回

(2) 院外活動

- ①院外講師 2 回

- ・栃木県看護協会小山地区支部：認知症看護につ
いての研修
- ・栃木ストーリーナビリテーション講習会：認知症
の人のストーマ管理

- ②セミナー参加 2 回、栃木県認知症看護認定看護
師会参加 4 回

(3) 学会参加 2 回

- ①日本認知症ケア学会
- ②日本老年看護学会

16) 緩和ケア

緩和ケア認定看護師は、看護部本部に所属し緩和ケ
アチーム専従看護師である 1 名と 8 階南病棟・緩和ケア病
棟に所属する 1 名の 2 名である。

(1) 院内活動

- ・緩和ケアリンクナース勉強会の企画と運営。
- ・病棟内のスタッフ教育
- ・所属部署内・外からのコンサルテーションを受ける
- ・緩和ケアチームの一員として、がん性疼痛認定看

看護師と協力し院内の必要部署でのカンファレンスの参加、オピオイド回診を行う。

(2) 院外活動

- ・院外の ELNEC-J 講習会協力

(3) 実習受け入れ

- ・岩手医科大学附属病院高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程 2 名

(4) 学会参加

- ・日本緩和医療学会
- ・日本がん看護学会
- ・死の臨床学会

8. 平成27年度の重点項目に対する取り組みの経過と今後の課題

4. で重点項目とした1)～3)の平成27年度の重点項目を達成するためにBSCを活用して取り組んだ。各部署の活動、前述の委員会・連絡会、専門・認定看護師の活動があった。その他の経過は以下のとおりである。

(1) 看護職員の確保など

平成27度も一般病棟入院基本料7:1が継続でき、平成26年度の診療報酬改定で重症度、医療・看護必要度に変更になったため、15%以上を昨年度に引き続き今年度も維持できた。しかし、夜勤時間が72時間を超えた月が、昨年度は5ヶ月(4・8・11・2・3月)あったが、今年度は9・12月の2ヶ月みであった。夜勤専従者や16時間以上の夜勤者を増やすことで対応を行った。

看護師の確保に関しては、今年度も、人事課・経営管理課・看護部で協力して行った。対象の学生の就職活動が早まっているため、昨年と同様に年度の早期から病院合同説明会への参加、当院での病院見学会の実施、インターンシップに取り組み、学校での説明会にも参加した。平成27年度は、看護システム支援委員会の下部組織として「看護職募集広報活動ワーキンググループ」を立ち上げた。構成メンバーは、人材確保看護副部長を責任者として、看護師長・主任看護師と2～3年目の看護師と経営管理課・企画経営室・人事課の職員である。広報媒体等・就職説明会・イベント担当に分かれて活動を行った。特に今年度は、看護部の広報のためのダイジェスト版を作成し、500の看護師養成校に送付した。平成27年度は新卒の入職者108人中60人(56%)が実習を受け入れている学校からの入職であった。看護職員の平成28年4月1日付けの採用者は、経験者13人を含め110人である。今年度も採用者のほぼ全員が、病院見学会やインターンシップ、学校での説明会に参加している。また、応募の主な理由には、教育制度や臨地実習での経験もあるため、今後も現

場の看護ケアを通して、当院で働きたいという雰囲気を感じられるような職場作りを行っていく必要がある。

今後の病院の将来構想から人員の確保が更に必要となったため、病院全体で人員確保に取り組むための委員会として平成26年度に看護システム支援委員会が発足した。平成27年度には、処遇の改善として、2・3交代手当ての改善、中央手術部・救命救急センター・夜勤専従者への手当が新設された。人員の要望については、新棟南棟(仮称)開設に伴う25名、11月から開始した救急患者のトリアージのための増員を含め53名が認められた。今後も委員会活動を通して、離職防止や人材確保に努めることが重要である。

特定病床の加算の維持に関しては、加算の取得が平成26年度より上昇することを目標において活動した。4部署が上昇し、4部署が下降した。下降した4部署の中で救命救急センター以外のNICU・GCU・2B病棟は患者数が増えているため加算の対象以外になっていたと考えられるため、部署間や地域との連携で、特定病床の加算を意識した病棟運営を考えていく必要がある。小児の加算については、小児入院医療管理料1を2部署と4を一部所が取得しているが、これは維持できた。小児入院医療管理料1を平成24年度から一病棟が施設基準の平均在院日数を超えていたため、取得できていない。入院する患児の疾病による入院期間の長期化が原因として考えられるため、現在の状況では加算の取得が困難なため診療報酬改定のための提言を行っていくことが必要である。

平成28年1月から呼吸内科の固有床の見直しが行われた。20%を共用床とする考え基、6階東病棟にあった6床と呼吸器内科の2床の計8床を8階西病棟に移動した。今後も年1回、固有床の見直しが予定されている。空床の有効活用が病床稼働率の確保には重要となるため、今後も取り組んでいく。

また育児休業明けの正規職員短時間勤務制度の利用者が過去最高を更新し(平成28年3月現在87人)、勤務時間や夜勤者の確保が困難になっているため、引き続き勤務時間や夜勤への協力依頼を育休通信や育休面接で説明を行っている。また、平成23年3月に看護職員の強い要望で開設された夜間保育所は、利用者が5人と今年度も効果的に利用されていないため、正規職員短時間勤務者の活用とともに今後の大きな課題となっている。

また、看護師の業務負担軽減の一環として臨時の看護補助員を平成23年度から20人採用し、脳

神経センター、循環器センター、本館 8 階フロアーに配置し、急性期看護補助加算75：1を取得していたが、平成24年7月から、50：1の急性期看護補助加算に変更した。昨年度に続き平成27年度も一般病棟のみなし分の看護師人数と職員・臨時の看護補助員で50：1の急性期看護補助加算が継続できた。平成27年度より、現在の期限付きの臨時の看護補助員の雇用の形態が変更になり、年度毎の更新ができることになった。平成27年度も昨年度と同様に、途中で退職した職員の補充ができない状況が継続しているため、派遣の看護補助員を導入した。それでも、確保が困難なため、看護補助員の採用に関しても、新たな対応を行う必要性がある。

- (2) 業務負担軽減として、平成27年度は看護補助員の土日の出勤が6部署で認められた。薬剤部と話し合い、抗がん剤の暴露防止対策を策定し、抗がん剤のミキシングや持参薬の確認がほぼできるようになった。平成27年度はベッドメンテナンスの人員が新規事業として認められ活動を開始している。今後も、看護師の業務負担軽減に取り組んでゆきたい。
- (3) 平成27年度は、病院機能評価受審のため、再度色々なマニュアルの等の整備を行った。病院全体として、整備が必要なルールの作成が明らかになった。今後も、質の高い看護を提供するために、看護部としての課題を明らかにして取り組んでいく。

入院・外来患者を対象とした患者満足度調査で改善が必要であった①患者の話を良く聞く②病状説明③診断・治療に関する情報提供に関して、改善ができたという結果が得られた。病院機能評価受審の評価項目に「患者が理解できるような説明を行い、同意を得ている」「患者・家族の意見を聞き、質改善に活用している」という項目があり、認定を目指して職員の意識が高まり活動した結果であると考え。今後も、患者サービスの視点から看護の質の向上に努める。

看護実践力の向上のための一つとして、平成25年度から早期退院支援にかかわれる体制作りに取り組んでいる。平成25・26年は年3～4回の説明会、研修、情報交換会を行い、今年度は全看護職員対象の講演会も開催し、退院支援担当者の支援と交流を行ってきた。平成27年度は委員会を立ち上げ退院支援の質の向上を目指して活動を行った。

- (4) 部署別教育・研修として、「災害対策学習会」「看護必要度勉強会」「倫理事例検討会」を行なった。「災害対策学習会」は、安全活動推進委員会、「看護必要度勉強会」は看護情報システム委員会

が対応した。特に、災害に対する対応は訓練以上のことはできないため、いつ訪れるのかが分からない災害のために速やかな対応ができるように日頃から習慣づけることが重要である。平成26年度は「倫理事例検討会」を行わなかったため、新人看護職員臨床研修の部署別課題研修の「看護倫理」の結果に影響したと考えられたため、今年度は行うこととした。部署別教育・研修の実施時期が遅かったため、「看護倫理」の研修に間に合わなかった状況があった。次年度は部署別教育・研修の実施時期を早める必要がある。

- (5) 離職防止の一環として、平成21年度から看護職員間の交流を図る目的のレクリエーションを行なっている。今まで部署の紹介や川柳大会(2回)を行い、平成25年度はインフルエンザの流行などがあったため、集合しないでできる全看護職員のがんばりを表彰した。平成26年度は開催することができなかった。平成27年度は玉入れ大会を行い、23チーム、総勢260人が参加した。来年度も、開催時期を考慮しつつ、実施する予定である。

職場環境の改善のために、業者を通してアンケートを実施した。最も職員満足度に影響力が高く、職員の満足度の低かった項目が「仕事量が適切」「人員数が適切」であった。次年度は、この点の改善に向けて取り組むことによって、更なる満足度の向上を目指して取り組んでいく予定である。

9. 看護部教育実績

1) 看護職の教育

看護師、助産師に関しては、看護職キャリア支援センターにおけるラダー研修プログラムに沿って実施した。

看護管理者研修として主任看護師対象の研修を4回実施した。今年度はJ-ARISEの目指す5つの能力の看護実践能力を高めるためリフレクションを学び、それぞれ自分の看護観をまとめ発表した。(表3参照)

師長研修会は6回実施した。今年度は「看護管理者としての視点を育てる」ことを目標に、日本看護界の動きに注目するとともに、11月の病院機能評価受審をテーマに実施した。(表4参照)

機能役割研修として、看護補助員・クラーク研修を合同で実施した。テーマを「認知症の理解と、高齢者の患者さんへのかかわり方」として、認知症看護認定看護師による講義を全4回実施し、162名が受講した。

看護部講演会は平成27年10月5日に開催した。テーマは「生きることの意味—自分のできること—」と題して、公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢をの代表大住力氏に講演を依頼し約300名が参加した。

表3. 主任研修会開催状況

開催日	時間	内容	参加者
5月8日	2H	講義とグループワーク リフレクションについて 課題：自分が大切にしている、 またはこだわりのある看護とその理由	60名
平成28年 1月8日	2H	看護観の発表20名	60名
2月12日	2H	看護観の発表20名	60名
3月11日	2H	看護観の発表20名	60名

表4. 師長研修会実施状況

	開催日	時間	内容	参加者
第1回	5月21日	2H	職員満足度調査の結果 から看護師長としての 取り組み	45名
第2回	7月14日	2H	機能評価受審に向けて 看護師長として必要な コンピテンシーを理解 する	45名
第3回	9月17日	2H	やりがい感を持って看 護実践ができるスタッ フを育てるための看護 師長の関わり	45名
第4回	11月19日	2H	看護師特定行為の研修 制度について理解する	45名
第5回	平成28年 1月21日	2H	部署における退院支援 (在宅支援)を円滑に 進めていくために看護 師長としてどのように イニシアティブを取っ ていくか	45名
第6回	3月17日	2H	看護職員の働き方を理 解し、働き続けるた めに看護師長がどう支 援していくか	45名

2) 認定看護師の育成

今年度は慢性心不全看護認定の取得のため1名研修中である。

現在、感染管理認定看護師は1名であるため、病院として複数名の配置が課題となっており希望者を募ったが、育成には至らなかった。その他にも1名のみの認定分野に関しては、複数配置に向けて取り組んでいく必要があり、来年度以降も育成を推進していく。

3) 認定看護管理者の育成

今年度はファーストレベル研修を7名、セカンドレベル研修を4名、サードレベル研修を1名が受講した。ファーストレベル認定は主任看護師53名看護師長8名で合計61名、セカンドレベル認定は看護師長30名、看護副部長1名計31名となった。サードレベル研修は1名が受講し修了した。またサードレベルは今年度2名が認定され、認定看護管理者は6名となった。(表5参照)

表5. 認定看護管理者数

研修名	H27年度 受講者数	認定者
サードレベル 研修	1	6
セカンドレベル 研修	4	31
ファーストレベル 研修	7	61

4) 臨床実習の教育体制

看護学生、医療保育学生の実習指導を例年どおり受け入れ実施した。また、認定看護師教育課程の実習は「集中ケア」「糖尿病看護」「緩和ケア」を例年どおり受け入れ指導した。(表6参照)

表6. 実習受け入れ状況

学 校 名	日数	人数
東京衛生学園専門学校	2	5
獨協医科大学	4	1
福島県立医科大学大学院看護学研究科	4	1
東京慈恵会医科大学	14	2
日本看護協会看護研修学校(糖尿病看護認定看護師)	24	3
日本看護協会看護研修学校(集中ケア認定看護師)	21	3
川崎医療短期大学(医療保育士)	10	4
東京衛生学園専門学校	2	5
国際医療福祉大学2年	5	18
東京衛生学園専門学校	2	2
東京衛生学園専門学校	2	3
足利短期大学	12	12
国際医療福祉大学3年(急性期)	32	18
岩手医科大学附属病院高度看護研修センター(緩和ケア認定)	20	2
東京衛生学園専門学校	2	2
東京衛生学園専門学校	2	3
栃木県県南高等看護専門学院	5	30
栃木県立衛生福祉大学3年	31	31
独立行政法人地域医療機能推進機構(サードレベル看護管理)	2	1
東京衛生学園専門学校	2	5
東京衛生学園専門学校	2	1
国際医療福祉大学3年(母性)	26	18
栃木県立衛生福祉大学3年 小児追実習	5	1
杏林大学医学部付属病院(集中ケア認定看護師)	20	2
東京衛生学園専門学校	2	1
国際医療福祉大学3年(統合実習・母性)	5	3
国際医療福祉大学3年(統合実習・成人)	6	4
茨城県結城看護専門学校	1	34
合 計		215

5) 看護師特定行為研修

平成27年10月期から開設した、自治医科大学看護師特定行為研修に、5名の看護師職員が入学した。平成28年度4月期は7名の入学を予定している。

10. 院外への講師派遣

看護師養成機関5施設からの依頼により、看護部職員を講師として派遣し、看護学教育に協力した。(表7参照) また、看護協会関係や県内外の医療施設や行政機関から認定看護分野への講義の依頼を受け、自施設内にとどまらず、広く看護界全体の看護職の教育に貢献した。

表7. 講師派遣の状況

施設名	人数
栃木県立衛生福祉大学校(本科・専科)	10
栃木県南高等看護専門学校	2
マロニエ医療福祉専門学校	2
茨城県結城看護専門学校	2
日本保健医療大学	2
合計	18

11. 院外学会・研修等への参加実績

今年度の学会、研究会等の演題発表数および参加者数はの表に示す(表8、表9参照)

表8. 学会発表・講師派遣等

	日本看護学会	その他の学会	研究会	合計
発表演題	1	31	17	49
シンポジスト		6	0	6
座長		6	2	8

表9. 院外研修(学会含む)参加者数

主催	内訳	人数
日本看護協会	学会	20
	研修会	18
栃木県看護協会	学会	29
	研修会	407
その他	学会	106
	研究会	37
	研修会	96
中央研修会 (地域医療振興財団)	研修会	23
合計		736

自治医科大学単独の研究で、学術集会で発表した演題は27題であった。(表10参照)

表10. 平成27年度学会発表者名

	演題発表 学会名	発表者
1	第62回日本小児保健協会学術集会	植木 良子
2	第11回日本クリティカルケア学会	岡田 和之
3	第60回日本透析医学会学術集会	小林 玲子
4	第60回日本透析医学会学術集会	吉川 友恵
5	栃木県母性衛生学会	菊池美帆子
6	日本シミュレーション医療教育学会	大澤 弘子
7	第23回日本乳癌学会学術総会	軽部真粧美
8	第18回日本高齢者消化器病学会総会	古内三基子
9	日本小児看護学会第25回学術集会	手塚 園江
10	日本ルーラルナーシング学会 第10回学術集会	松沼 早苗
11	日本ルーラルナーシング学会 第10回学術集会	高橋 綾佳
12	日本ルーラルナーシング学会 第10回学術集会	小谷 妙子
13	日本小児麻酔学会 第21回大会	松沼 早苗
14	第24回日本集中治療医学会関東甲信越地方会	宇野 智仁
15	第12回世界集中治療医学会	茂呂 悦子
16	第46回日本看護学会 慢性期看護(日本看護協会)	金子 弓子
17	第20回日本糖尿病教育 看護学会学術集会	飯田 久子
18	第20回日本糖尿病教育 看護学会学術集会	新井 英美
19	第29回日本手術看護学会年次集会	矢野 碧
20	第12回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会	山口 順子
21	第17回日本救急看護学会学術集会	市村 千明
22	第28回日本放射線腫瘍学会代28回学術集会	森 貴子
23	第24回日本新生児看護学会学術集会	八木橋千恵
24	第43回日本集中治療医学会学術集会	笹井 香織
25	第43回日本小児神経外科学会	永島 瞳
26	第44回人工心臓と補助循環懇話会学術集会	前沢 幸代
27	第44回人工心臓と補助循環懇話会学術集会	木下友己恵

看護部の内容は全て平成27年度のデータで作成している。